

# 哲 學 研 究

第 二 十 一 卷 第 八 冊

第 二 百 四 十 五 號

昭 和 十 一 年 八 月 一 日 發 行



(大正五年四月六日第三種郵便物認可)昭和十二年七月廿五日印刷納本(毎月一回一日發行)

「理念型」構成の論理……………文學士 安田 行雄

世界觀の社會學 (承前)……………文學士 權 俊 雄

物心の關係に就いて (承前)……………工學博士 上田 大助

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內

京 都 哲 學 會

## 京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
  - 一、毎年公開講演會ヲ開ク
  - 一、毎月一回哲學研究ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
  - 一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ贊同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

## 京都哲學會役員

### 委員

文學博士	天野貞祐
文學士	岩井勝二郎
文學博士	植田壽藏
文學士	臼井二尚
文學博士	小島祐馬
文學博士	木村素衛
文學博士	九鬼周造
文學博士	田邊一元
文學士	中井正一
文學士	西谷啓治
文學博士	野上俊夫
文學博士	羽溪了諦
文學博士	波多野精一
文學士	服部英次郎
文學博士	本田義英
文學博士	山内得立

# 前 號 目 次

性 と 血 (承前) ..... 文學士 高山岩男

—— 原本的人間及び原本的社會の實在的諸要素 ——

存在の判斷的性格と判斷の存在的性格 ..... 文學士 土井虎賀壽

—— 知覺論序論 ——

物心の關係に就いて ..... 文學博士 上田大助

告 會

一、本會へ入會希望者ハ京都市西洞院七條南内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候  
 一、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版印刷株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候  
 一、會費ハ振替口座大阪三〇六六三番 内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候  
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候  
 京都帝國大學  
 文學部 內 京都哲學會

註 文 規 定

◆ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版印刷株式會社へ御申込下され度候  
 ◆ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下され度候  
 ◆ 振替貯金にて御送金の際は(振替大阪三九三二番東京三九三二番)内外出版印刷株式會社宛に願上候  
 ◆ 前金切れの場合に帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候  
 ◆ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

定 價

冊 數	冊 數	冊 數	冊 數	冊 數	冊 數
一冊	二冊	三冊	四冊	五冊	六冊
金貳拾錢	金四拾錢	金六拾錢	金八拾錢	金一拾貳錢	金一拾肆錢
郵 稅	郵 稅	郵 稅	郵 稅	郵 稅	郵 稅
不 申	不 申	不 申	不 申	不 申	不 申
受	受	受	受	受	受

廣 告 料

一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

昭和十一年七月廿五日印刷納本 第二百四十五號第二十一卷 昭和十一年八月一日發 行

京都帝國大學文學部內

編輯者 京都哲學會

右代表者 服部英次郎

發行者 須磨勘兵衛

印刷者 須磨勘兵衛

印刷所 内外出版印刷株式會社

發 行 所

京都市下京區西洞院七條南

内外出版印刷株式會社

振替口座 大阪三二九五五番 東京三九三二番

本社 京都市下京區西洞院通七條南入 販賣所 京都市日本橋區室町四丁目 内外出版印刷株式會社

賣 捌 所

(東京) 寶文館 東海堂  
 (大阪) 寶文館 盛文堂  
 (神戸) 寶文館 川瀬書店  
 (京都) 共盛社 大盛社

不許複製 禁轉載

岡崎文夫著

# 支那史概説 上

價一五〇  
税二四

第一章古代史、第一節先史時代、第二節上古時代、第三節春秋戰國時代(一)、第四節春秋戰國時代(二)、第五節秦漢帝國時代(一)、第六節秦漢帝國時代(二)、第七節秦漢帝國時代(三)、第二章中世史、第一節三國兩晉時代、第二節南北朝時代、第三節隋唐帝國時代(一)、第四節隋唐帝國時代(二)、第三章近世史(闕)

武内義雄著

# 諸子概説

價一五〇  
税二四

一、儒家(孔子) 曾子 子思子 孟子 子夏 公孫尼子 子游 荀子 儒家の性説 二、墨家(墨家總論 墨翟 魯 墨翟 三墨) 三、名家(名家總論 宋銜と尹文 惠施 公孫龍子 墨子の經及經説 荀子の正名) 四、陰陽家(陰陽家總論 鄒子) 五、道家(道家總論 老子 關尹と列子 楊朱 環淵と田駢 莊子) 六、法家(法家總論 申子 慎到 韓非) 七、縱橫家(縱橫家總論 鬼谷子) 八、農家(農家總論 許行) 九、雜家(雜家總論 管子 呂氏春秋) 十、兩漢の諸子

青木正兒著

# 支那文學概説

價一五〇  
税二四

第一章語學大要、一、六書、二、訓詁、三、音韻、第二章文學序説、一、文學思想の發展、二、文學諸體の發達 第三章詩學、一、詩經、二、古體詩、三、今體詩、四、詩曲、第四章文章學、一、文章流別、二、辭賦、三、駢文、四、古文、第五章戲曲小説學、一、雜劇、二、戲文 三、文言小説、四、白話小説、第六章評論學

(大正五年四月六日)昭和十一年七月廿五日印刷納本(毎月一回) 第三種郵便物認可 昭和十一年八月一日發(行)一日發行

内藤湖南著

# 東洋文化史研究

菊クロス天金 三九〇頁 價三〇〇 税二二

こゝに湖南博士の支那文化に關する講論を蒐めて一書を成す、内容は上古殷代社會狀態の叙述より漢・唐・宋の特徵的なる文化事象の點描を経て近代支那社會の特質の論斷に及び更に滿洲民族の歴史傳説の興味深き比較研究に至る。開市に在つて自らの家郷を省るに暇なき新「支那學」も一度諄々たる著者の言に接して郷土山中に甘泉の滋味を掬するの想を成し新たな發足の英氣を恢復せんとするのではないか極めて通俗的にもなされた本書は博士の知友門下の人々に對しては勿論、一般讀書子にとつても亦本書が一代の碩學の風貌を偲ぶよすがとなるであらう。

内容目次 支那上古の社會狀態、殷虛に就て、染織に關する文獻の研究、北派の書論、紙の話、支那の通貨としての銀、宋元板の話、概括的唐宋時代觀、近代支那の文化生活、民族の文化と文明とに就て、支那人の觀たる支那將來觀とその批評、支那に還れ、東北亞細亞諸國の感生帝説、女眞種族の同源傳説、日本滿洲交通略説、古の滿洲と今の滿洲、昔の滿洲研究

内藤湖南著

# 日本文化史研究

價三〇〇  
税二二

哲學研究 第二百四十五號 定價金四拾錢

郵税金壹錢

東京 神田區 駿河臺 振東三九〇九  
京都 丸太町 一七〇五

# 弘文堂

